

第2章 個別事業における産学官連携ケーススタディ

2-1. ケーススタディの実施状況

(1) ケーススタディの主旨

- ・企業等における国の科学技術振興事業の利用状況、利用内容及び助成事業の効果、助成事業への要望について把握することとした。

(2) ケーススタディの対象

- ・産学官連携共同体（コンソーシアム）を形成するメンバーのうち、地域産業振興を直接的に担う企業に焦点を当て、ヒアリングを実施。（一部産業支援機関を含む）

(3) ヒアリング項目

- ・ヒアリング項目は、以下に示す会社概要、研究開発の実態、利用した科学技術振興事業、助成事業の効果、助成事業に対する要望等。

①会社等概要

- ・創業年、資本金、売上高、従業者数、主要製品等

②研究開発の実態

- ・研究開発体制（部門、人員等）
- ・近年の研究開発の内容（とくに新製品開発等として結実したもの）
- ・大学等との共同研究など産学官連携の実施状況

③利用した科学技術振興事業

<国の助成事業の利用状況>

- ・研究開発を行う上で、これまでに利用した国の助成事業等について
- ・助成事業を利用した経緯（都道府県の商工担当者や産業振興機関の仲介、大学の先生による仲介など）

<利用した助成事業の利用内容等>

- ・助成内容（助成金額、指導人材の派遣など）
- ・利用の実態（自社で要した自己資金、学官等連携相手および役割分担など）

③助成事業の効果

- ・新製品開発等の成功にとって、助成事業がどの程度のウェイトを占めたか
- ・助成事業を利用した新製品が、どの程度売上高の増加に寄与したか
- ・その他、社内へのノウハウの蓄積、研究人材の育成、研究開発に関する人材ネットワークの形成など、助成事業がどのような効果をもたらしたか

④助成事業に対する要望

- ・助成事業の改善点、今後、整備を希望する助成制度など

(4) 実施状況

表2-1-1 ケーススタディ・ヒアリング対象企業・機関

企業名・機関名 (所在地)	研究テーマ名	助成事業名
A 社 (秋田県)	・スギを用いた新しい木質材料の利用展開	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業(農林水産省)
B 社 (東京都)	・サツマイモ液状化技術の開発	食品産業技術開発支援事業(農林水産省)*
C 社 (東京都)	・茶の抗アレルギー作用を利用した食品の開発	新事業創出研究開発事業(地域型) (独)農業・生物系特定産業技術研究機構
D 社 (大阪府)	・遺伝子を細胞の中に導入する役割を果たすベクターの開発・応用に関する研究開発	地域コンソーシアム研究開発事業(経済産業省)
E 社 (熊本県)	・工程応用型フレキシブルロボット技術に関する研究開発	地域コンソーシアム研究開発事業(経済産業省)
F 社 (山口県)	・びん・缶・ペットボトル破砕減量機のダンプ式減容機の開発	新規産業創造技術開発費補助金(経済産業省)
G 県	・環境インテリジェントゲルの開発	中小企業技術開発産学官連携促進事業(中小企業庁)
H 機関 (茨城県)	・光硬化型ナノ金型に関する研究	戦略的基盤技術力強化事業(中小企業総合事業団)
I 社 (東京都)	・高容量常温作動ポロハイドライド液体燃料電池の実用化研究開発	大学発事業創出実用化研究開発事業(NEDO)
J 社 (滋賀県)	・流域圏を対象としたダイオキシン類の総合的調査手法の構築とその挙動モデルの開発	環境技術開発等推進事業(環境省)

*ブランド・ニッポン加工食品供給促進技術開発事業の前身